

平成28年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	宮城県		市町村類型	II - 1		指定団体等の指定状況		区分		平成28年度(千円)	平成27年度(千円)	区分		平成28年度(千円・%)	平成27年度(千円・%)																																																																																																																																																																													
						財政健全化等	×	歳入総額	4,615,249	4,587,527	実質収支比率	9.5	5.5																																																																																																																																																																															
市町村名	大衡村		地方交付税種地	2-3		財源超過	×	歳出総額	4,237,859	4,338,691	経常収支比率	94.4	87.1	(100.2)	(93.1)																																																																																																																																																																													
						首都	×	歳入歳出差引	377,390	248,836	(※1)																																																																																																																																																																																	
						近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	142,762	113,464	標準財政規模	2,468,848	2,444,674																																																																																																																																																																															
						中部	×	実質収支	234,628	135,372	財政力指数	0.69	0.68																																																																																																																																																																															
人口	27年国調(人)	5,703	産業構造(※5)			単年度収支	99,256	-23,215	公債費負担比率	10.1	9.9	健全化判断比率	-	-																																																																																																																																																																														
	22年国調(人)	5,334				過疎	×	積立金	47,111	30,841	実質赤字比率				-	-																																																																																																																																																																												
	増減率(%)	6.9				山振	×	繰上償還金	-	-	連結実質赤字比率				-	-																																																																																																																																																																												
住民基本台帳人口(※7)	29.01.01(人)	5,877	区分	27年国調	22年国調	低開発	×	積立金取崩し額	170,000	30,000	実質公債費比率	9.4	9.5	資金不足比率(※4)	-																																																																																																																																																																													
	うち日本人(人)	5,813		第1次	371	379	指数表選定	○	実質単年度収支	-23,633	-22,374	将来負担比率	8.6			-																																																																																																																																																																												
	28.01.01(人)	5,838	第2次		12.9	14.3	基準財政収入額	1,374,652	1,291,937	基準財政需要額	1,914,435	1,896,297	標準税収入額等			1,785,818	1,676,394																																																																																																																																																																											
	うち日本人(人)	5,781		第3次	973	748	経常経費充当一般財源等	2,320,276	2,196,415		歳入一般財源等	3,418,833				3,370,796																																																																																																																																																																												
	増減率(%)	0.7	第3次		33.9	28.3	地方債現在高	3,426,919	3,440,148		うち公的資金	3,092,463				3,061,650	債務負担行為額(支出予定額)	264,003	185,781																																																																																																																																																																									
	うち日本人(%)	0.6		1,526	1,517	収益事業収入	-	-	土地開発基金現在高		225,764	225,444				積立金現在高	1,003,542	1,046,431	減債基金	202,366	201,752																																																																																																																																																																							
	面積(km ²)	60.32		53.2	57.4	その他特定目的基金	948,813	974,723																																																																																																																																																																																				
人口密度(人/km ²)	95																																																																																																																																																																																											
世帯数(世帯)	1,755																																																																																																																																																																																											
職員の状況																																																																																																																																																																																												
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)																																																																																																																																																																																				
	市区町村長	1	7,630		一般職員	74	201,946	2,729	地方債現在高	3,426,919	3,440,148	うち公的資金	3,092,463	3,061,650	債務負担行為額(支出予定額)	264,003	185,781																																																																																																																																																																											
	副市区町村長	1	5,870		うち消防職員	-	-	-	収益事業収入	-	-	土地開発基金現在高	225,764	225,444	積立金現在高	1,003,542	1,046,431																																																																																																																																																																											
	教育長	1	5,020		うち技能労務職員	2	*	*	財政調整基金	1,003,542	1,046,431	減債基金	202,366	201,752	その他特定目的基金	948,813	974,723																																																																																																																																																																											
	議会議長	1	2,670		教育公務員	-	-	-																																																																																																																																																																																				
	議会副議長	1	2,170		臨時職員	-	-	-																																																																																																																																																																																				
	議会議員	12	2,040		合計	74	201,946	2,729																																																																																																																																																																																				
						ラスパイレス指数			93.8																																																																																																																																																																																			
<table border="0"> <tr> <td>一般会計等の一覧</td> <td>事業会計の一覧</td> <td>公営企業(法適)の一覧</td> <td>公営企業(法非適)の一覧</td> <td>関係する一部事務組合等一覧</td> <td>地方公社・第三セクター等一覧</td> </tr> <tr> <td>項番</td> <td>会計名</td> <td>項番</td> <td>会計名</td> <td>項番</td> <td>組合等名</td> <td>項番</td> <td>団体名</td> <td colspan="8">(※3)</td> </tr> <tr> <td>(1)</td> <td>一般会計</td> <td>(2)</td> <td>国民健康保険事業勘定特別会計</td> <td>(5)</td> <td>水道事業会計</td> <td>(6)</td> <td>下水道事業特別会計</td> <td>(9)</td> <td>黒川地域行政事務組合(一般会計)</td> <td>(19)</td> <td>瀬万葉まちづくりセンター</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(3)</td> <td>介護保険事業勘定特別会計</td> <td></td> <td></td> <td>(7)</td> <td>戸別合併処理浄化槽特別会計</td> <td>(10)</td> <td>黒川地域行政事務組合(介護事業会計)</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(4)</td> <td>後期高齢者医療特別会計</td> <td></td> <td></td> <td>(8)</td> <td>宅地造成事業特別会計</td> <td>(11)</td> <td>黒川地域行政事務組合(病院事業会計)</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(12)</td> <td>吉田川流域溜池大和町外2市4ヶ町村組合</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(13)</td> <td>大衡村外1町牛野ダム管理組合</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(14)</td> <td>色麻町外1市1ヶ村花川ダム管理組合</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(15)</td> <td>宮城県市町村職員退職手当組合</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(16)</td> <td>宮城県市町村非常勤消防団員補償報償組合</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(17)</td> <td>宮城県市町村自治振興センター</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(18)</td> <td>宮城県後期高齢者医療広域連合</td> <td colspan="5"></td> </tr> </table>																一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	(※3)								(1)	一般会計	(2)	国民健康保険事業勘定特別会計	(5)	水道事業会計	(6)	下水道事業特別会計	(9)	黒川地域行政事務組合(一般会計)	(19)	瀬万葉まちづくりセンター							(3)	介護保険事業勘定特別会計			(7)	戸別合併処理浄化槽特別会計	(10)	黒川地域行政事務組合(介護事業会計)								(4)	後期高齢者医療特別会計			(8)	宅地造成事業特別会計	(11)	黒川地域行政事務組合(病院事業会計)														(12)	吉田川流域溜池大和町外2市4ヶ町村組合														(13)	大衡村外1町牛野ダム管理組合														(14)	色麻町外1市1ヶ村花川ダム管理組合														(15)	宮城県市町村職員退職手当組合														(16)	宮城県市町村非常勤消防団員補償報償組合														(17)	宮城県市町村自治振興センター														(18)	宮城県後期高齢者医療広域連合					
一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧																																																																																																																																																																																							
項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	(※3)																																																																																																																																																																																				
(1)	一般会計	(2)	国民健康保険事業勘定特別会計	(5)	水道事業会計	(6)	下水道事業特別会計	(9)	黒川地域行政事務組合(一般会計)	(19)	瀬万葉まちづくりセンター																																																																																																																																																																																	
		(3)	介護保険事業勘定特別会計			(7)	戸別合併処理浄化槽特別会計	(10)	黒川地域行政事務組合(介護事業会計)																																																																																																																																																																																			
		(4)	後期高齢者医療特別会計			(8)	宅地造成事業特別会計	(11)	黒川地域行政事務組合(病院事業会計)																																																																																																																																																																																			
								(12)	吉田川流域溜池大和町外2市4ヶ町村組合																																																																																																																																																																																			
								(13)	大衡村外1町牛野ダム管理組合																																																																																																																																																																																			
								(14)	色麻町外1市1ヶ村花川ダム管理組合																																																																																																																																																																																			
								(15)	宮城県市町村職員退職手当組合																																																																																																																																																																																			
								(16)	宮城県市町村非常勤消防団員補償報償組合																																																																																																																																																																																			
								(17)	宮城県市町村自治振興センター																																																																																																																																																																																			
								(18)	宮城県後期高齢者医療広域連合																																																																																																																																																																																			

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

(1) 普通会計の状況 (市町村)

歳入の状況 (単位 千円・%)					地方税の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	1,487,903	32.2	1,487,903	64.2	普通税	1,487,903	100.0	-	
地方譲与税	47,955	1.0	47,955	2.1	法定普通税	1,487,903	100.0	-	
利子割交付金	356	0.0	356	0.0	市町村民税	322,272	21.7	-	
配当割交付金	1,028	0.0	1,028	0.0	個人均等割	9,438	0.6	-	
株式等譲渡所得割交付金	591	0.0	591	0.0	所得割	177,901	12.0	-	
地方消費税交付金	147,785	3.2	147,785	6.4	法人均等割	49,050	3.3	-	
ゴルフ場利用税交付金	15,829	0.3	15,829	0.7	法人税割	85,883	5.8	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	1,086,013	73.0	-	
自動車取得税交付金	10,151	0.2	10,151	0.4	うち純固定資産税	1,085,547	73.0	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	19,368	1.3	-	
地方特例交付金	3,950	0.1	3,950	0.2	市町村たばこ税	57,250	3.8	-	
地方交付税	925,592	20.1	541,041	23.4	鉱産税	-	-	-	
普通交付税	541,041	11.7	541,041	23.4	特別土地保有税	3,000	0.2	-	
特別交付税	169,236	3.7	-	-	法定外普通税	-	-	-	
震災復興特別交付税	215,315	4.7	-	-	目的税	-	-	-	
(一般財源計)	2,641,140	57.2	2,256,589	97.4	法定目的税	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	1,593	0.0	1,593	0.1	入湯税	-	-	-	
分担金・負担金	2,287	0.0	-	-	事業所税	-	-	-	
使用料	78,355	1.7	-	-	都市計画税	-	-	-	
手数料	15,138	0.3	-	-	水利地益税等	-	-	-	
国庫支出金	525,640	11.4	-	-	法定外目的税	-	-	-	
国有提供交付金(特別区財調交付金)	28,049	0.6	28,049	1.2	旧法による税	-	-	-	
都道府県支出金	224,223	4.9	-	-	合計	1,487,903	100.0	-	
財産収入	137,214	3.0	29,645	1.3					
寄附金	2,798	0.1	-	-					
繰入金	417,940	9.1	-	-					
繰越金	168,836	3.7	-	-					
諸収入	66,036	1.4	9	0.0					
地方債	306,000	6.6	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	141,900	3.1	-	-					
歳入合計	4,615,249	100.0	2,315,885	100.0					

区分	平成28年度	平成27年度
徴収率	99.3	95.1
現年計	99.2	95.9
(%)	99.4	94.7
合計	99.4	94.7
市町村民税	99.3	95.9
純固定資産税	99.4	94.7

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	537,253	実質収支	58,146
下水道	161,370	再差引収支	52,643
病院	61,654	加入世帯数(世帯)	689
上水道	13,812	被保険者数(人)	1,252
宅地造成	3,500	被保険者	95
国民健康保険	39,118	1人当り	107
その他	257,799	保険税(料)収入額	248
		国庫支出金	107
		保険給付費	248

歳出の状況 (単位 千円・%)					
目的別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	84,382	2.0	-	84,382	
総務費	714,489	16.9	6,319	647,314	
民生費	779,296	18.4	31,401	459,372	
衛生費	386,427	9.1	-	369,750	
労働費	-	-	-	-	
農林水産業費	231,220	5.5	27,782	122,059	
商工費	155,962	3.7	-	137,419	
土木費	835,521	19.7	435,411	427,402	
消防費	140,520	3.3	-	134,537	
教育費	364,175	8.6	21,798	314,025	
災害復旧費	193,167	4.6	-	100	
公債費	352,700	8.3	-	345,083	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	4,237,859	100.0	522,711	3,041,443	

性質別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	1,403,103	33.1	1,100,001	1,099,554	44.7
人件費	625,269	14.8	611,959	611,855	24.9
うち職員給	359,592	8.5	349,405	-	-
扶助費	425,134	10.0	142,959	142,616	5.8
公債費	352,700	8.3	345,083	345,083	14.0
元利償還金	352,700	8.3	345,083	345,083	14.0
うち元金	319,229	7.5	311,612	311,612	12.7
うち利子	33,471	0.8	33,471	33,471	1.4
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	2,118,878	50.0	1,802,476	1,220,722	49.7
物件費	631,694	14.9	556,927	481,340	19.6
維持補修費	95,212	2.2	74,835	74,835	3.0
補助費等	666,262	15.7	599,327	321,169	13.1
うち一部事務組合負担金	321,842	7.6	309,566	183,582	7.5
繰出金	461,787	10.9	358,938	343,378	14.0
積立金	200,268	4.7	166,983	-	-
投資・出資金・貸付金	63,655	1.5	45,466	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	715,878	16.9	138,966	-	-
うち人件費	5,869	0.1	3,800	-	-
普通建設事業費	522,711	12.3	138,866	-	-
うち補助	209,860	5.0	7,270	-	-
うち単独	312,851	7.4	131,596	-	-
災害復旧事業費	193,167	4.6	100	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	4,237,859	100.0	3,041,443	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

平成28年度

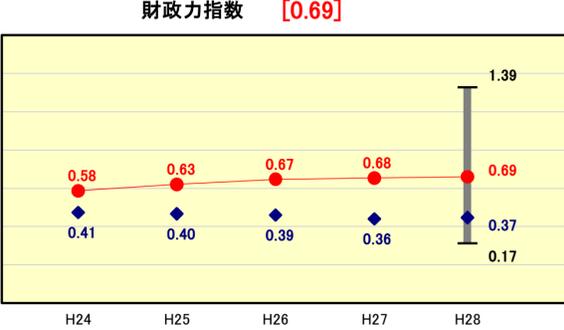
宮城県大衡村

人口	5,877	人(H29.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	5,813	人(H29.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	60.32	km ²	実質公債費比率	9.4	%
歳入総額	4,615,249	千円	将来負担比率	8.6	%
歳出総額	4,237,859	千円	市町村類型	H24 II-2 H25 II-2 H26 II-2	
実質収支	234,628	千円	(年度毎)	H27 II-1 H28 II-1	
標準財政規模	2,468,848	千円			
地方債現在高	3,426,919	千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成29年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

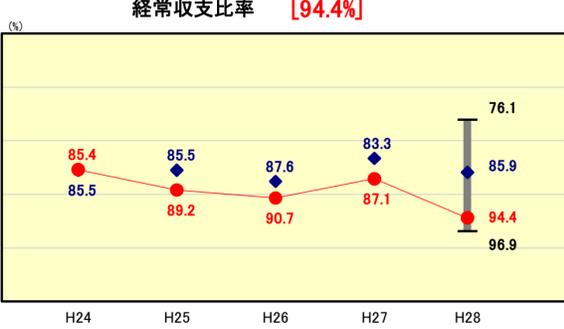
財政力



類似団体内順位 7/79 全国平均 0.50 宮城県平均 0.53

財政力指数の分析欄
 自動車関連産業や太陽光パネル製造企業が相次ぎ操業を開始している他、農業物流倉庫などの立地もあり、順調に生産活動が進んでいる影響で、法人税や固定資産税を中心に収収が堅調に伸びており(前年度比0.6%増)、近年は全国・県・類似団体平均を上回る状況が続いている。
 さらに、人口減少対策として村地方創生戦略にも位置付けている定住促進事業や子育て支援事業なども積極的に事業展開している中、定住人口も年々微増となっており、個人住民税等の収収効果も顕著に表れている。
 今後もこれらの事業を積極的に展開しながら、事業の選択と集中による歳出抑制、村税等滞納額の圧縮などの債権整理も強化しながら、行財政の効率的な運営・財政の健全化に努めていきたいと考えている。

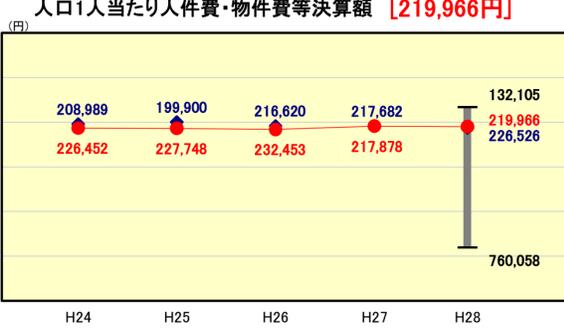
財政構造の弾力性



類似団体内順位 75/79 全国平均 92.5 宮城県平均 95.2

経常収支比率の分析欄
 前年度から7.3%増となり、類似団体内順位も75位と下位に順位を下げた。率が上昇した大きな要因として、収収が震災復興特別交付税に振り替わったことが挙げられる。通常、収収として見込める固定資産税の一部が、震災復興特区による減免となり、これに関しては震災復興特別交付税として全額措置されるが、他方、臨時一般財源扱いとなるため経常収支比率には反映されないため、上昇する要因の一つとなった。
 人件費については、定年退職された職員が落ち着き、新規に職員を採用する人数が増え、全職員の約1/3が近年入庁した職員で占めているため抑制された状態となっている。また公債費もピークを過ぎ減少に転じている状況となっている。今後も、適正な定員管理に努めるとともに、事業の優先度を点検・精査した上で経常経費の歳出抑制を図っていききたいと考えている。

人件費・物件費等の状況



類似団体内順位 43/79 全国平均 123,135 宮城県平均 139,336

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 宮城県平均と比較して上回っている主要因は物件費であり、指定管理者制度を活用した公共施設等の運営管理や認定こども園への委託料、公園等公共施設等の除草管理委託料等の増加が大きな比重を占めている。また、除排雪経費や小中学校をはじめとした各公共施設の備品購入費関係も増加傾向にあることも寄与しているところである。
 今後も事業の精査を積極的に行っていくながら、維持管理経費の節減に尚一層努めていきたいと考えている。

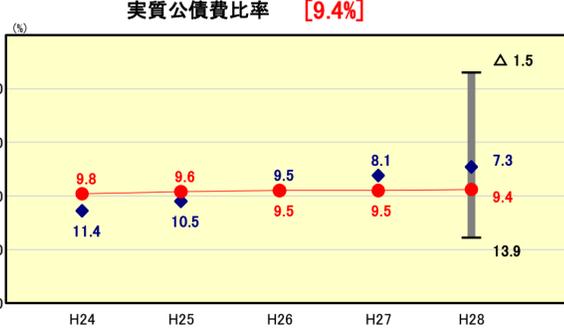
将来負担の状況



類似団体内順位 36/79 全国平均 34.5 宮城県平均 49.8

将来負担比率の分析欄
 前年度は△4.6%であったが今年度はプラスに転じた。前年度に比して将来負担額が3.5%増加した反面、充当可能財源が1.4%減少したことが影響したところである。
 将来負担額を押し上げた一番の要因は公営企業債等繰入見込額で、前年度より16.3%増加した。さらに、宅地造成事業特別会計において、今年度は本格的な造成工事が行われたこともあり、一般会計や民間資金の借入額が多額であったことから増加したところである。
 充当可能基金については、新住宅団地造成事業に係る基金繰入や国民健康保険事業勘定特別会計に係る財政調整基金の繰入が多額となったことから減となったのが大きな要因である。また、充当可能特定歳入は公営住宅建設事業債償還高に対する充当可能な住宅使用料を充てているが、今年度は住宅の長寿命化工事が多額であったため、起債充当率が大きく減少したところである。基準財政需要額算入見込額は算入率がほぼ全ての項目で下がった他、算入対象の起債償還が完了したのもあり、こちらも大きく減少し、全体的には将来負担率が上昇したところである。

公債費負担の状況



類似団体内順位 56/79 全国平均 6.9 宮城県平均 8.8

実質公債費比率の分析欄
 交付税措置の高い起債の活用と事業内容を精査した上での起債発行額抑制策により、近年横ばいが続いているが、県平均よりは高くなっている。一般会計における元利償還金は近年減少が続いていたが、臨時財政対策債の償還が本格的に始まっていることを受け増加に転じ、さらに公営企業(下水道、下水道浄化槽、宅地造成)に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金も増加傾向にあり上昇している。他方、標準財政規模については、企業誘致や定住促進策を積極的に進めてきた結果、企業立地や人口増が進んでおり、これにより収収増につながり、標準収収額は前年度比で6.5%の増となっている。また、収収増の反動により、普通交付税額と臨時財政対策債発行可能額についてはそれぞれ減少しているところである。
 今後、公営企業会計の起債償還額が増加を見込んでいることから、公債費比率の増加につながるものと予測しており、標準収収額の増加につながる施策をさらに積極的に展開していきたいと考えている。

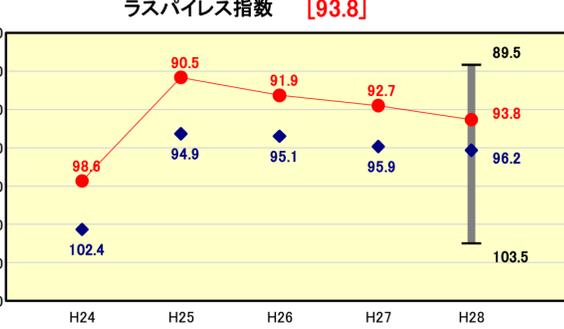
定員管理の状況



類似団体内順位 46/79 全国平均 7.90 宮城県平均 9.77

人口千人当たり職員数の分析欄
 類似団体平均とはほぼ同数であるが、全国平均並びに県平均より上回っているが、本村の集中改革プランに沿った適正な定員管理計画の定員は90名で、これに従い実施しているところであり、職員の新規採用も行っているが適正な定員数には達していないところである。(H29.4.1 職員数:84名)
 今後も民間委託の活用、事務事業の見直しによる効率的な行財政運営を図りながら適正な職員配置を随時行い、限られた人員数の中においても適正な定員管理に努めていきたいと考えている。

給与水準 (国との比較)



類似団体内順位 17/79 全国市平均 99.1 全国町村平均 96.4

ラスパイレース指数の分析欄
 職員の定員適正化計画等に基づき、本村独自に給料俸や各種手当の総点検による給与体系の見直しを積極的に行っており、全国市町村平均並びに類似団体平均よりも大きく下回っているところである。特に類似団体内では上位となっているところである。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成28年度

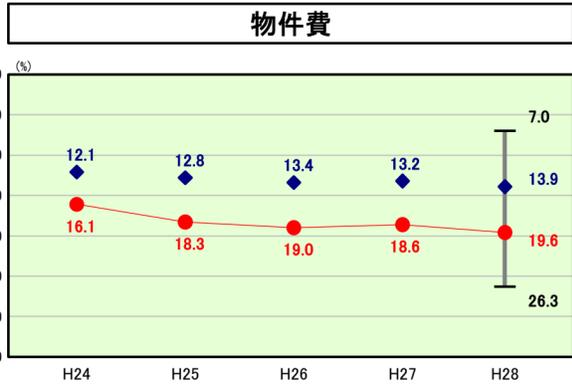
宮城県大衡村

経常収支比率の分析

人口	5,877人	(H29.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	5,813人	(H29.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	60.32km ²		実質公債費比率	9.4%
歳入総額	4,615,249千円		将来負担比率	8.6%
歳出総額	4,237,859千円		市町村類型	H24 II-2 H25 II-2 H26 II-2
実質収支	234,628千円		(年度毎)	H27 II-1 H28 II-1
標準財政規模	2,468,848千円			
地方債現在高	3,426,919千円			

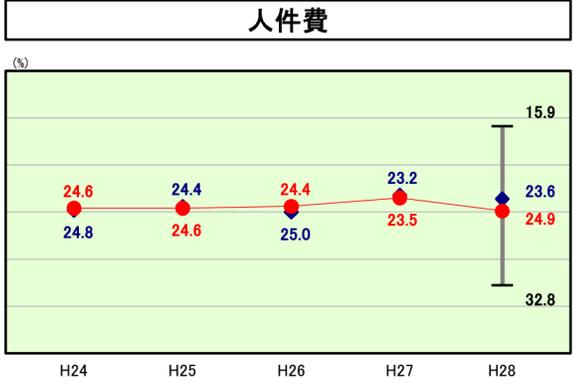


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



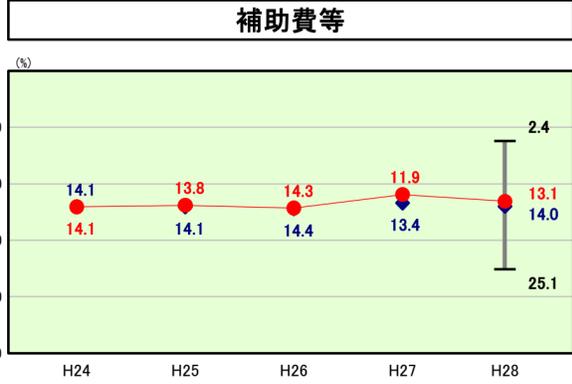
物件費の分析欄

物件費における経常収支比率が上昇しているのは、村集中改革プランに基づき、各種業務の民間委託を推進し、職員人件費等から委託料へシフトが進んでいることが大きな要因である。職員定員管理計画で定める定員に満たない分、民間委託を積極的に進めているところで、村内7施設の維持管理を本村が65%出資している法人に指定管理者として委託している他、公立の保育園と幼稚園を閉鎖し、民設民営の認定こども園を運営する法人に委託、また、住民バスやスクールバスの委託や教育強化の一環として村独自に配置している学習支援員に係る人件費等が主な要因となっている。
 管理経費の軽減、人件費の抑制を図る上では有効な手段と考えており、物件費の率は高くなってはいるが、今後も民間委託できるものは積極的に移行していきたいと考えている。



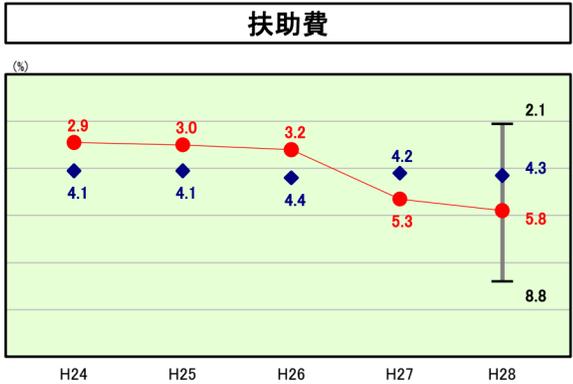
人件費の分析欄

従来より実施してきた職員の定員適正化計画に基づきながら、計画的な職員採用や抑制、早期退職者勧奨制度や再任制度の導入、臨時職員の雇用、給料俸の昇給制度の見直し、退職時の特別昇給等の廃止等、人件費の圧縮に積極的に取り組んできた成果は表れているところであり、類似団体平均とほぼ同程度の数値となっているが、県平均で比較すると下回っているところである。



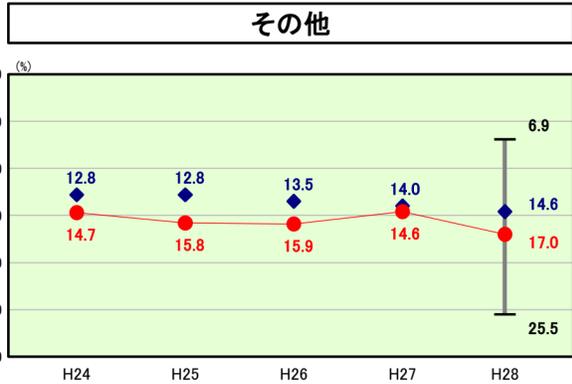
補助費等の分析欄

全国平均並びに県平均よりは上回っているものの、類似団体平均よりは下回っているところである。企業進出のインセンティブとして本村独自に助成している企業立地奨励金や定住促進策として個人が新築したり、事業主がアパートを新築した際に助成する定住促進奨励金、太陽光パネル設置に係る助成金、一部事務組合に対する負担金の増加などが大きな要因となっている。また、公立の保育園と幼稚園を廃止し、民間に委託している認定こども園に入園させている保護者の負担を一部軽減させるための助成金、村社会福祉協議会への運営補助金なども要因の一つとなっている。中途で廃止できる要素の補助費ではないため、今後もやや高い水準で推移するものと考えている。



扶助費の分析欄

全国平均並びに県平均よりは下回っているが、類似団体平均よりは高い数値となっている。満18歳までの医療費助成や公立の保育園や幼稚園を廃止し、民間に委託している認定こども園に対する施設運営費、障害介護・訓練等給付費、自立支援医療費等が増加要因となっている。



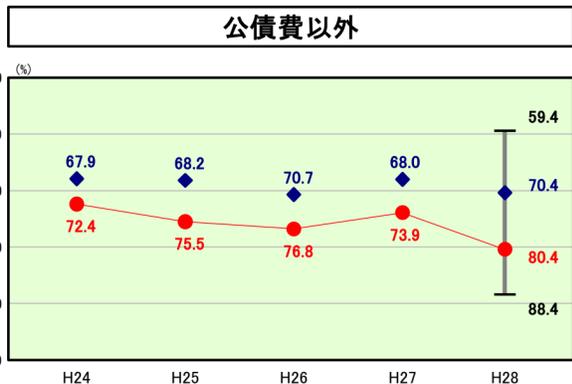
その他の分析欄

全国平均よりは上回っているが、県平均並びに類似団体平均よりは下回っている。主な要因としては各種特別会計への繰入金増加によるものである。歳出全体の14.0%を占め、前年度比3.9%の増加となっている。下水道施設や戸別合併処理浄化槽に関しては維持管理経費や施設整備で発行した元利償還費が使用料収入だけでは賅うことができず、繰入金に依存している状況である。また、国保会計や介護保険会計等についても医療費や社会保障費の増加に伴うもの、繰出基準外に係るものもあり増加傾向となっている。さらに、27年度から造成している宅地造成事業会計もあり、今後も増加していくものと見込んでいる。
 今後は、独立採算の原則に立ち戻り、使用料や保険料等料金の適正化を考慮した料金体系の見直しも検討していきながら、一般会計からの繰入金抑制に努めていきたいと考えている。



公債費の分析欄

事業の進行管理や実施する事業の選択と集中を徹底し、年次計画的に事業を進めながら起債発行を抑制してきた結果、全国平均並びに県平均、類似団体平均よりも下回っているところである。
 交付税率の高い臨時財政対策債や辺地対策事業債を除く各種起債発行額は減少傾向にあるが、今後、長寿命化対策による公営住宅事業債や公園・道路に係る公営事業等債の発行額が生じてくるものと見込んでいる。
 近年の公債費比率に関しては、微減傾向にあると考えており、今後も事業内容を厳しく精査し、安易に起債発行に依存するのではなく、起債以外の財源を積極的に活用しながら、起債発行額の抑制に努めていきたいと考えている。



公債費以外の分析欄

全国平均並びに県平均、類似団体平均よりも上回っている。
 村総合計画や村地方創生総合戦略の重点施策として位置付けている定住促進事業や子ども子育て事業、企業誘致や新エネルギー推進事業等を促進していくための各種基盤整備事業やソフト事業の増加が大きな要因となっている。特に、定住人口の増加を図るための新住宅団地に係る道路・公園等の基盤整備や定住促進補助金、子ども子育てに係る各種助成金は本村活性化には必要不可欠な要素であり、その実現のために今後も継続していく方針である。
 本村の独自色を打ち出したり、良好なまちづくりを形成したりしていくためには欠かせない事業であり、今後も各種プロジェクト実現のための施策事業を計画しており、財源の確保、事業内容の精査による経費削減に努めていきながら、最小の経費で最大の効果を生み出す方を講じていきたいと考えている。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成28年度

宮城県大衡村

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

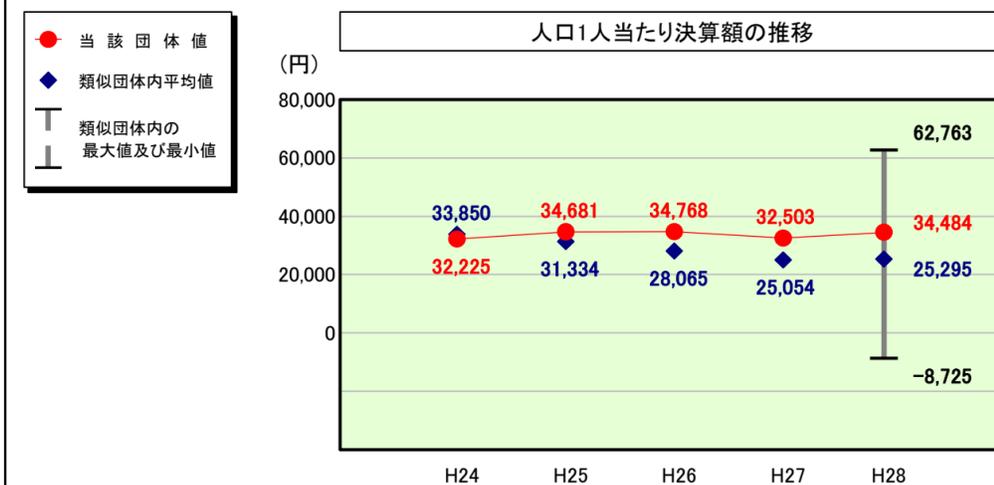
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	625,269	106,393	107,954	▲ 1.4
賃金(物件費)	27,170	4,623	12,579	▲ 63.2
一部事務組合負担金(補助費等)	136,639	23,250	13,215	75.9
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	1,342	228	1,280	▲ 82.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	35,983	6,123	5,658	8.2
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	5,869	999	2,915	▲ 65.7
▲退職金	▲ 65,306	▲ 11,112	▲ 10,925	1.7
合計	766,966	130,503	132,676	▲ 1.6

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	12.59	12.61	▲ 0.02
ラスパイレス指数	93.8	96.2	▲ 2.4

(注) 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

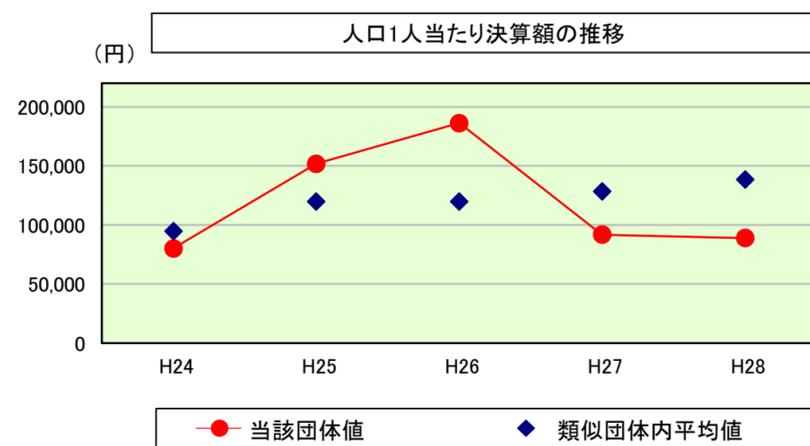


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	352,700	60,014	67,314	▲ 10.8
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	-	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	163,062	27,746	23,478	18.2
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	42,456	7,224	4,589	57.4
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	1,045	178	859	▲ 79.3
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利息は除く)	-	-	2	-
▲特定財源の額	▲ 7,617	▲ 1,296	▲ 2,412	▲ 46.3
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 348,981	▲ 59,381	▲ 68,535	▲ 13.4
合計	202,665	34,484	25,295	36.3

※平成29年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H24	447,921	80,072	▲ 68.0	94,828	3.1	▲ 71.1
うち単独分	348,204	62,246	▲ 54.3	55,133	4.9	▲ 59.2
H25	862,045	151,902	89.7	119,674	26.2	63.5
うち単独分	602,852	106,229	70.7	57,803	4.8	65.9
H26	1,074,858	186,252	22.6	119,685	0.0	22.6
うち単独分	638,642	110,664	4.2	68,464	18.4	▲ 14.2
H27	536,010	91,814	▲ 50.7	128,611	7.5	▲ 58.2
うち単独分	329,757	56,485	▲ 49.0	61,552	▲ 10.1	▲ 38.9
H28	522,711	88,942	▲ 3.1	138,651	7.8	▲ 10.9
うち単独分	312,851	53,233	▲ 5.8	71,211	15.7	▲ 21.5
過去5年間平均	688,709	119,796	▲ 1.9	120,290	8.9	▲ 10.8
うち単独分	446,461	77,771	▲ 6.8	62,833	6.7	▲ 13.5

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

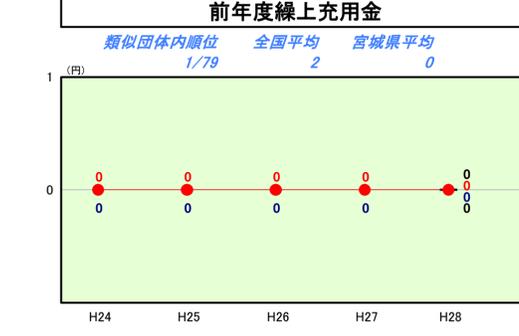
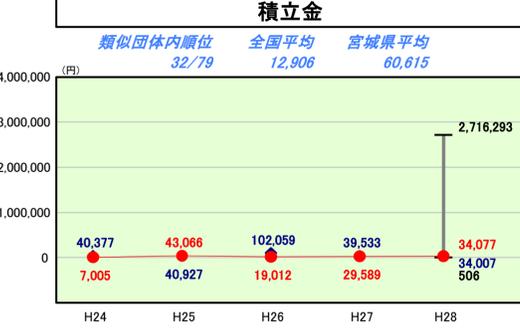
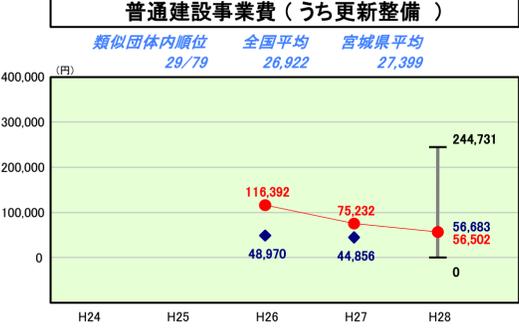
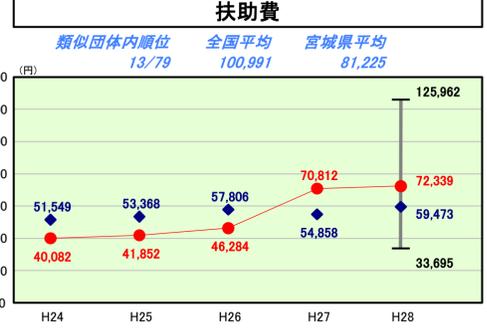
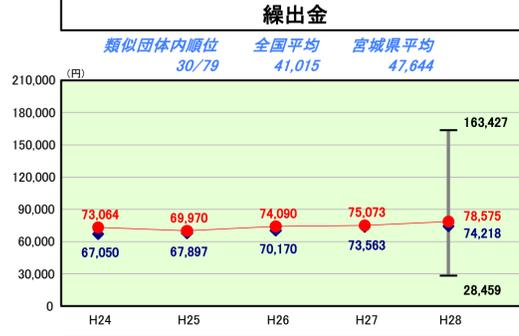
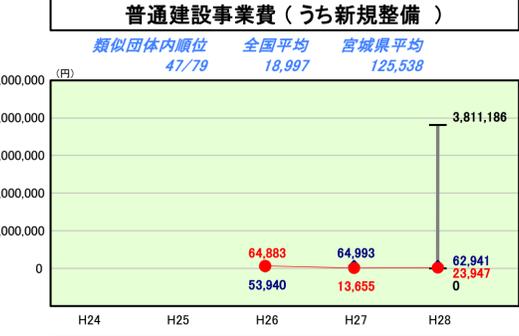
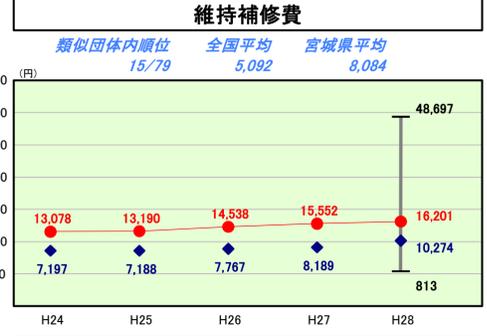
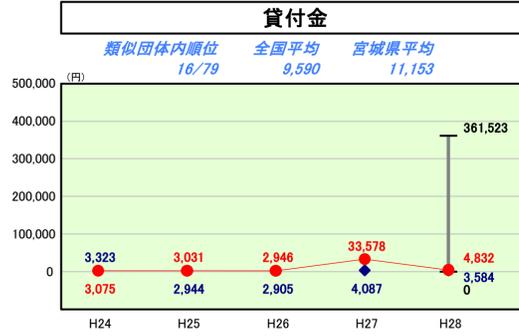
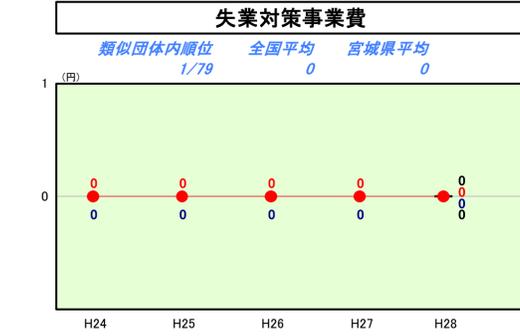
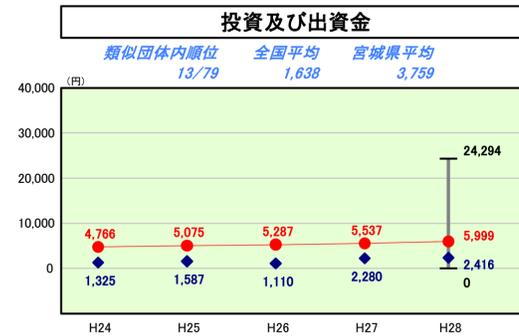
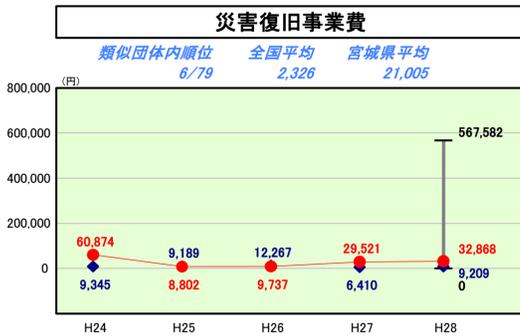
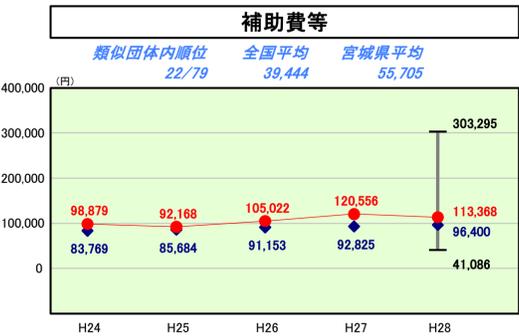
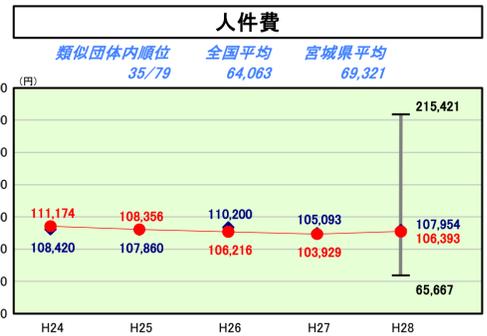
平成28年度

宮城県大衡村

人口	5,877人(H29.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	5,813人(H29.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	60.32km ²	実質公債費比率	9.4%
歳入総額	4,615,249千円	将来負担比率	8.6%
歳出総額	4,237,859千円	市町村類型	H24 II-2 H25 II-2 H26 II-2
実質収支	234,628千円	(年度毎)	H27 II-1 H28 II-1
標準財政規模	2,468,848千円		
地方債現在高	3,426,919千円		

- 当該団体値
- ◆ 類似団体内平均値
- ⌈ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析欄

歳出決算総額は住民一人当たり721,094円となっており、類似団体の平均(721,521円)とほぼ同額となっている。主な構成項目である人件費は、住民一人当たり106,393円となっており、24年度から27年度までは減少傾向となっていたが、定年退職者の減少並びに新規採用職員の大幅増に伴い、28年度は増加に転じた。扶助費は住民一人当たり72,339円で、前年度比2.2%増となっている。これは、3歳児未満の保育所が新規で増えたことによる増となっている(小規模保育事業;万葉にこにこ保育園)。普通建設事業費は住民一人当たり88,942円となっているが、近年は工業団地を往来するトラック等通行量の増加に伴う既存村道の改良舗装事業や長寿命化計画に基づく公園遊具等の更新事業など更新整備に係る建設コストの増大が主な要因となっている。また、27年度から始まった村独自の新住宅団地開発事業の関係で、団地内の公園や道路、防火水槽の設置などの普通建設事業費が増えている。貸付金は住民一人当たり4,832円となっているが、新住宅団地造成に係る宅地造成事業特別会計への貸付金が大割割合を占めている。災害復旧事業費は住民一人当たり32,868円と前年度比で11.3%増となったが、関東・東北豪雨災害(H28.9)の災害復旧事業費が大きな要因であり、公共施設の災害復旧の他、補助対象とならない個人農地の復旧に対して、村独自に助成金を出したことが大きくなった要因の一つである。投資及び出資金は住民一人当たり5,999円と類似団体平均額の約2.5倍となっているが、一部事務組合が経営する病院への出資金や森林組合への出資金となっている。

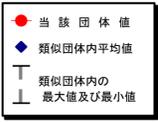
今後は、今年度策定した公共施設等総合管理計画に基づいた住宅や公園、橋梁等の普通建設事業費の更新整備分が増加していくものと考えているが、事業の選択と集中を徹底していきながら、可能な限り歳出規模を平準化させた年次計画を立てていながら整備していきたいと考えているとともに、施設整備用に新たな基金の造成も検討していきたいと考えている。

(6) 市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

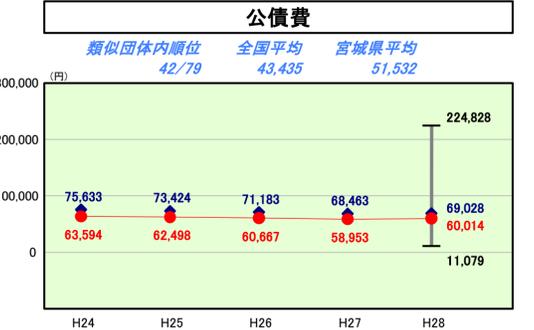
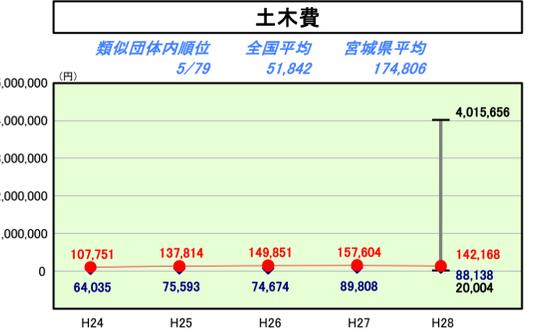
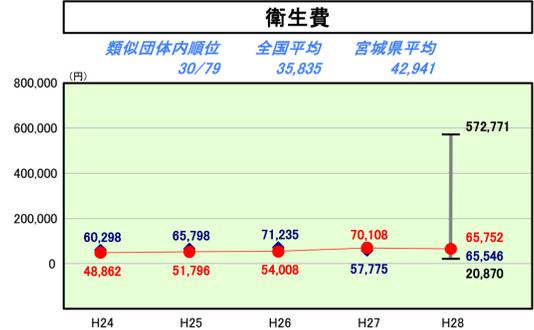
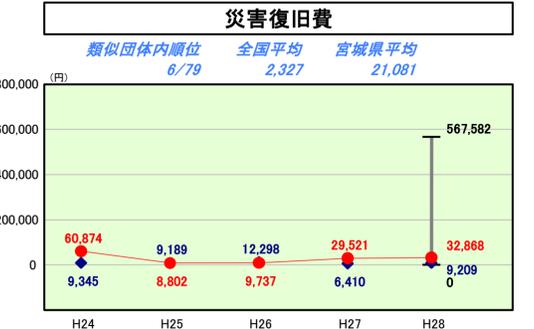
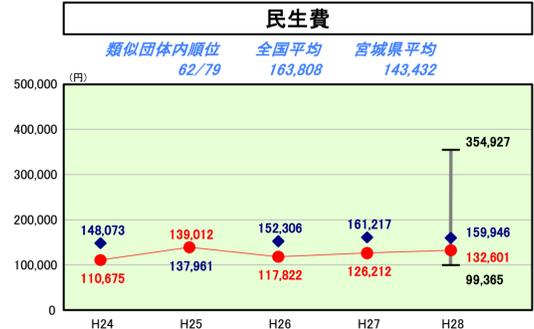
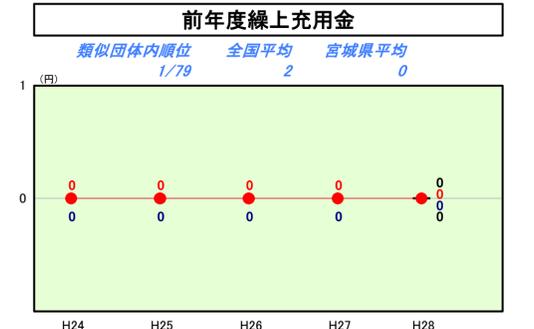
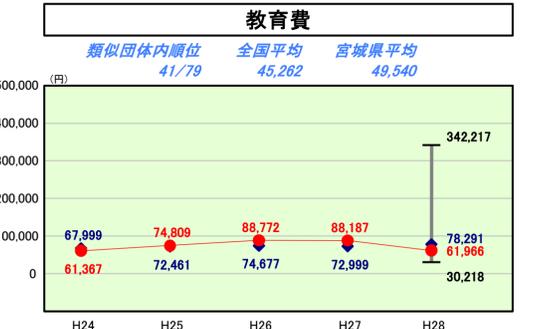
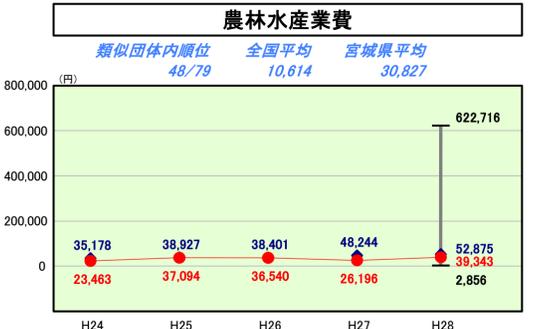
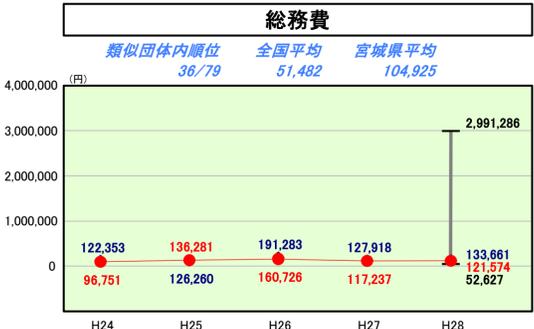
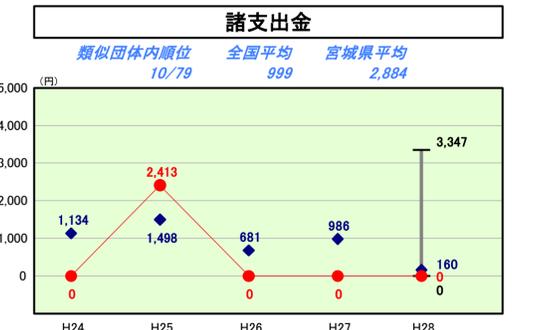
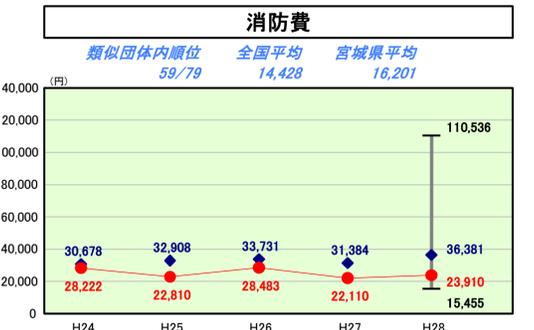
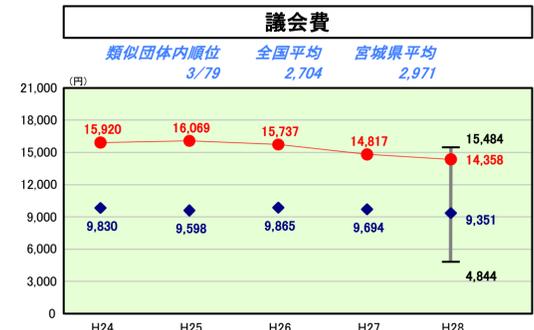
平成28年度

宮城県大衡村

人口	5,877人 (H29.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	5,813人 (H29.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	60.32km ²	実質公債費比率	9.4%
歳入総額	4,615,249千円	将来負担比率	8.6%
歳出総額	4,237,859千円	市町村類型	H24 II-2 H25 II-2 H26 II-2
実質収支	234,628千円	(年度毎)	H27 II-1 H28 II-1
標準財政規模	2,468,848千円		
地方債現在高	3,426,919千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



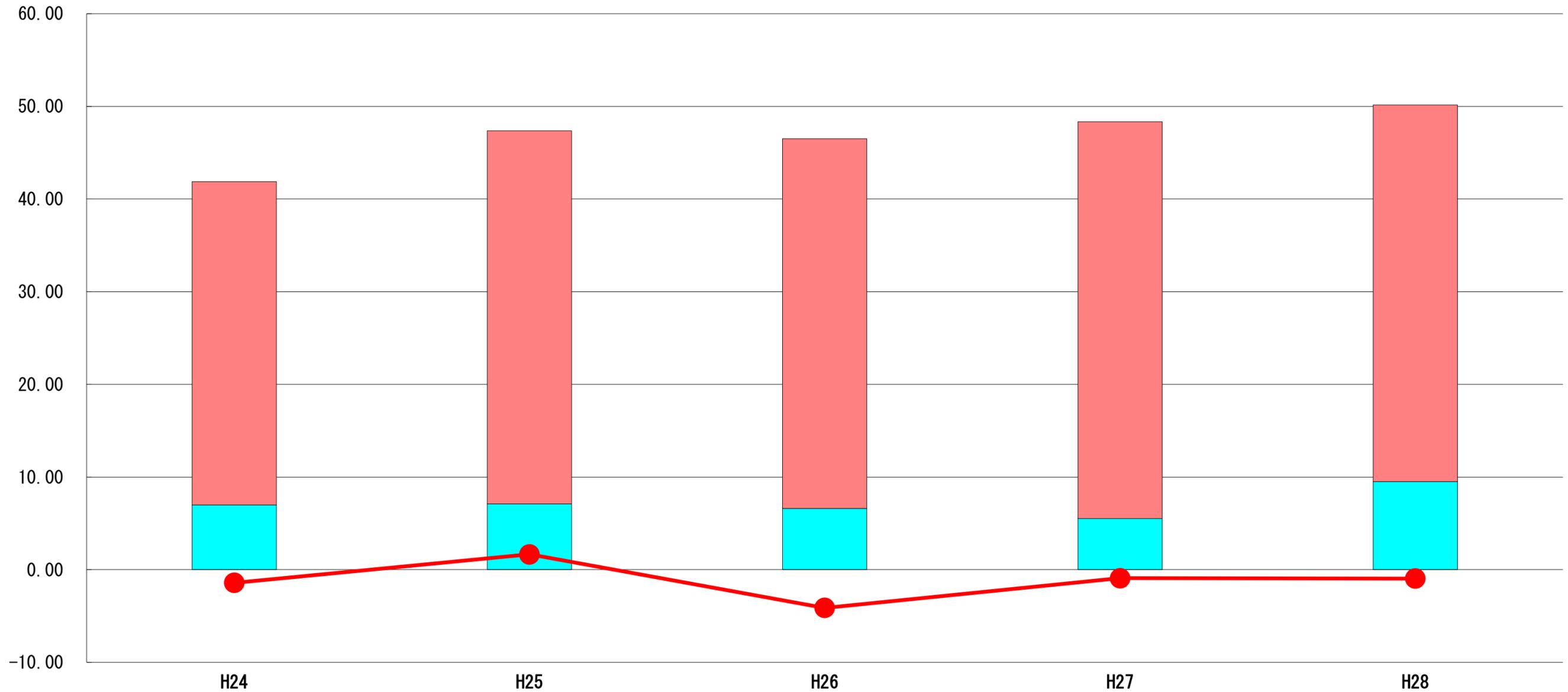
目的別歳出の分析欄
 総務費は住民一人当たり121,574円と前年度比3.7%増となっている。これは公共施設等総合管理計画策定経費(14,440千円)や防衛省補助金を基金化するための積立金(145,701千円)が要因の一つとなっている。民生費は住民一人当たり132,601円となっている。社会保障経費の増加や国民健康保険事業会計や介護保険事業会計への繰出金の増加の他、3歳児未満の子どもを受入れる小規模保育施設の整備工事費や民間による村内への障害者福祉施設整備に対する施設整備補助金や、児童福祉行政に要する経費である児童福祉費が大きいことも要因の一つで、認定こども園に保護者が負担する授業料等負担金の一部を助成したり、満18歳までの医療費無償化したりするなど、本村独自の事業も多く、必然的にコストの増加につながっている。衛生費は住民一人当たり65,752円となっている。これは現在建設中の新ごみ焼却施設建設費に係る一部事務組合への負担金や水道事業の高料金対策補助金が大きな要因となっている。商工費は住民一人当たり26,538円と類似団体平均額の1.5倍となっている。積極的な企業誘致を図るための村独自の助成金であり企業立地奨励金(88,579千円)が大きな要因となっている。土木費は住民一人当たり142,168円となっている。既存道路の改良舗装事業の継続事業に加え、公園施設や公営住宅の長寿命化計画に基づいた更新・改修工事や新住宅団地整備に係る団地内道路や公園、防火水槽の設置工事があり大きくなっている。消防費は消防行政を担っている一部事務組合への負担金の増に加え、防災対策の一環として各集会所へのAED設置費助成が大きな要因となっている。教育費は住民一人当たり61,966円となっている。新規として小学校教育用タブレット購入や教育用サーバの更新、小学校用業務用の公用車(軽トラック)の更新などが要因となっている。災害復旧費は住民一人当たり32,868円となっている。関東・東北豪雨災に係る公共施設の復旧事業費や補助対象とならない農地等災害復旧事業費補助金などが大きな要因となった。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析 (市町村)

平成28年度

宮城県大衡村

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

区分	年度	H24	H25	H26	H27	H28
 財政調整基金残高		34.88	40.29	39.89	42.80	40.65
 実質収支額		6.99	7.09	6.62	5.54	9.50
 実質単年度収支		▲ 1.42	1.65	▲ 4.12	▲ 0.92	▲ 0.96

分析欄

財政調整基金残高については、今年度は170,000千円の取崩しとなったが、東日本大震災時に村独自で村民に無利子貸付を行った財源の原資が当基金であり、その償還分と決算積立や利子を積み立てた結果、残高の率は約4割を確保し、依然として健全エリアの範囲内となっている。実質収支も健全エリアの範囲内であり、収支バランスを意識しながら精査しつつ行財政運営に努めてきた結果であり、経営は良好であると考えているが、取崩額が前年度より140,000千円増となったことを踏まえると楽観視はできないと認識しているところである。

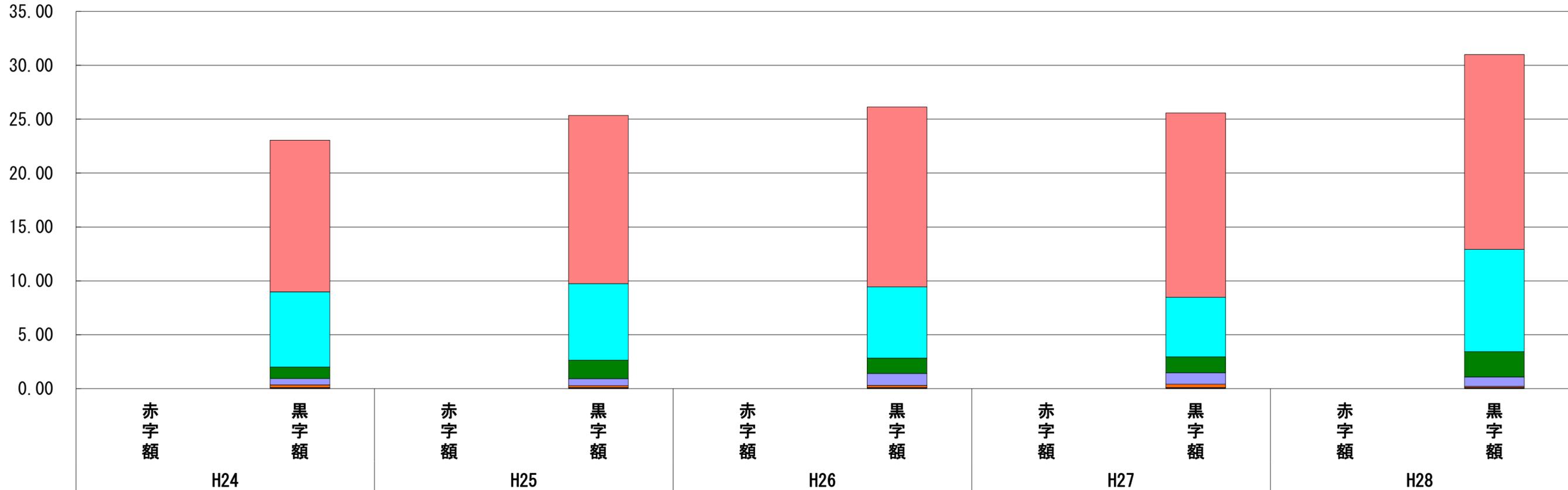
今後は、公共施設等総合管理計画に基づく各種長寿命化事業が順次計画されているところであり、財政需要が増加するものと見込んでいる。必要な経費には基金を充てながらも、その他の財源を確保しつつ、基金取崩しの抑制に努めていきたいと考えている。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成28年度

宮城県大衡村

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H24	H25	H26	H27	H28
水道事業会計		14.06	15.62	16.69	17.10	18.07
一般会計		6.98	7.09	6.61	5.53	9.50
国民健康保険事業勘定特別会計		1.07	1.72	1.42	1.47	2.35
介護保険事業勘定特別会計		0.58	0.64	1.11	1.08	0.87
下水道事業特別会計		0.27	0.20	0.22	0.31	0.12
戸別合併処理浄化槽特別会計		0.04	0.04	0.04	0.06	0.05
後期高齢者医療特別会計		0.04	0.04	0.04	0.03	0.03
宅地造成事業特別会計		-	-	-	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		-	-	-	-	-

分析欄

全会計が黒字を達成しており、健全な財政運営を行っているところである。
 水道事業会計については上水道使用料の需要が高い企業（太陽光パネル製造企業）の進出等により水道使用料が大幅に増加している反面、大規模な普通建設事業が近年実施されていないことから、黒字幅が大きくなり比率が高くなっている。しかし、今後アセットマネジメント計画に基づく水道管の更新時期を順次迎えていくこととなるため、歳出が膨らんでいくものと見込んでいる。
 下水道事業会計については自動車関連企業や太陽光パネル製造工場の進出等により使用料は増加したが、建設投資により発行した起債償還費が依然大きく、一般会計からの繰入金に依存している状態で、黒字幅は近年ほぼ横ばい状態が続いている。
 国民健康保険事業会計については、歳入で保険税が伸びているものの、歳出でも保険給付費や共同事業拠出金等が増加しており、財源確保のため財政調整基金を毎年取り崩しているところである。今年度は前年度に比べ若干黒字額は伸びたがほぼ横ばい状態が続いている。
 その他の会計については大きな黒字幅の変動は無く、ほぼ例年どおりとなっている。

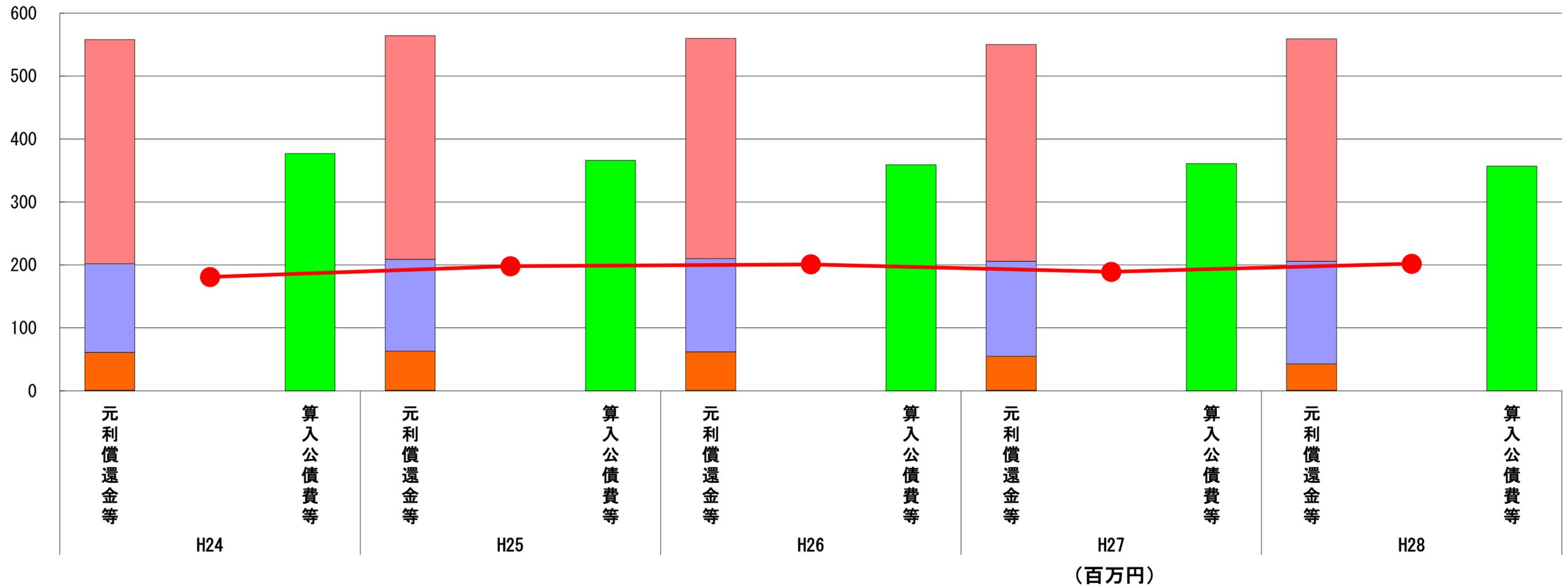
※平成29年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成28年度

宮城県大衡村

(百万円)



分子の構造		年度	H24	H25	H26	H27	H28
元利償還金等 (A)	元利償還金		356	355	350	344	353
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		141	146	148	151	163
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		60	62	61	54	42
	債務負担行為に基づく支出額		1	1	1	1	1
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		377	366	359	361	357
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		181	198	201	189	202

分析欄

企業誘致や定住促進策の推進で普通建設事業に係る投資的経費は近年大きいですが、防衛補助事業や社会資本整備総合交付金事業等補助割合の高い補助事業を積極的に活用し、起債発行額を極力抑制していることから、償還金はほぼ横ばいになっている。実質は臨時財政対策債の償還費が5割以上を占めており、今後は発行額が大きい臨時財政対策債や償還期限が短い辺地対策事業債の償還が毎年発生してくるところであり、起債償還額は若干増加していくものと見込んでいる。

公営企業債の元利償還金に対する繰入金については、下水道会計と浄化槽会計が毎年起債を発行しないと賸えない状況であり、さらに宅地分譲するまで財源が見込めない宅地造成事業会計の繰入金もあり、元利償還金は増大するものと見込んでいる。

さらに、一部事務組合が起こした地方債に充てるための負担金は、現在建設中のごみ処理施設整備事業に係る負担金が大きく、今後も負担金の増加を見込んでいる。

総体的には実質公債費比率がたかくなる要素が強いため、起債発行に際しては、内容を精査した上で必要最小限の発行に留めるよう努めていきたいと考えている。

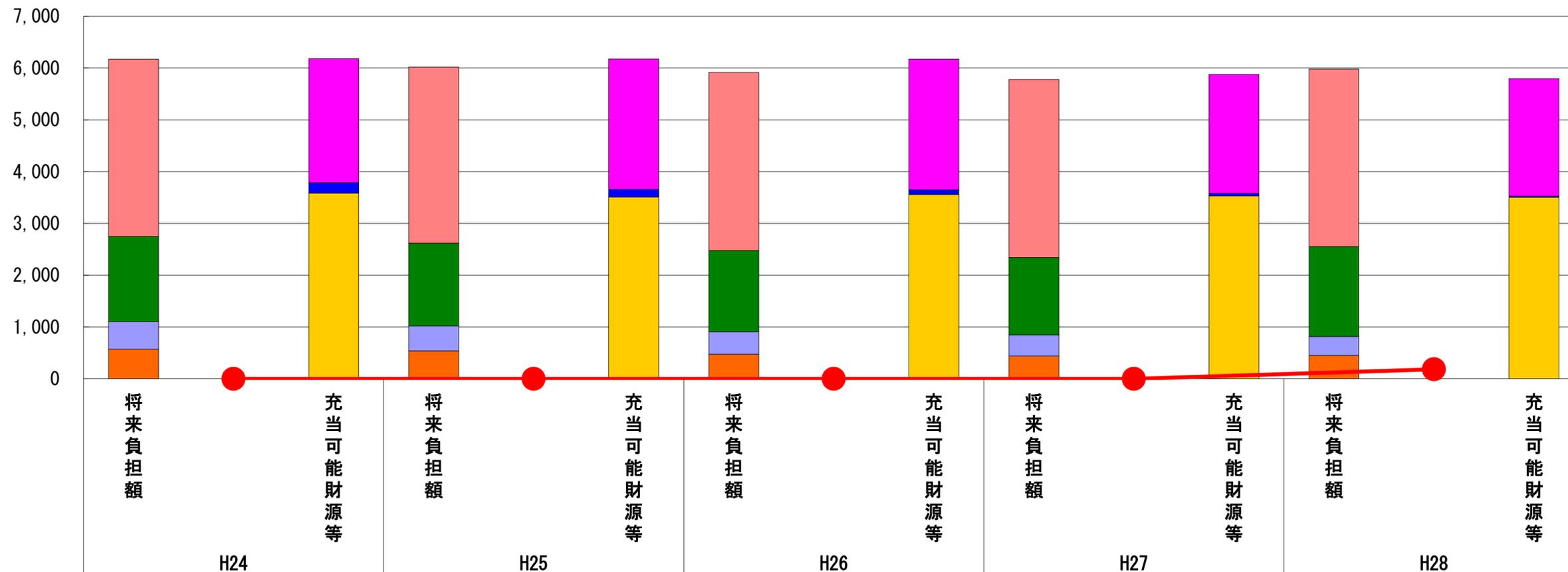
※平成29年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成28年度

宮城県大衡村

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H24	H25	H26	H27	H28
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		3,421	3,399	3,438	3,440	3,427
	債務負担行為に基づく支出予定額		-	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額		1,647	1,598	1,568	1,492	1,734
	組合等負担等見込額		532	484	434	408	366
	退職手当負担見込額		572	539	477	440	453
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		2,390	2,520	2,518	2,299	2,271
	充当可能特定歳入		205	150	93	47	22
	基準財政需要額算入見込額		3,584	3,508	3,559	3,531	3,505
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 8	▲ 159	▲ 253	▲ 98	183

分析欄

将来負担額が200,783千円増加した反面、充当可能財源が79,988千円減少したため、その結果、将来負担額が充当可能財源を上回り、将来負担比率が生じた。

将来負担額について、地方債現在高は前年度比で13,229千円減少したが、公営企業債等繰入見込額が前年度比で242,524千円増加し、将来負担額を押し上げた一番の要因となった。水道会計と下水道会計は減少傾向にあるものの、戸別合併処理浄化槽会計は順次起債償還が始まっているため増加している。さらに主要因となっているが宅地造成事業会計で、今年度は本格的な造成が施工されたこともあり、一般会計や民間から多額の借入金が発生し増加したものの。

退職手当組合への負担見込額は、近年職員の新規採用が多くなっていることから、前年度比で13,594千円増となった。

充当可能基金に関しては、新住宅団地造成事業に係る基金繰入や国民健康保険事業会計に係る財政調整基金の繰入が多額であったことから28,120千円の減となった。

充当可能特定歳入は、公営住宅建設事業債残高に対する充当可能な住宅使用料の余剰金を充てているが、長寿命化計画に基づく公営住宅の改修工事が始まり、特定歳入への充てこみが見込めず、前年度比で25,221千円減少した。

今後も各種事業内容を精査していきながら、極力起債発行

※平成29年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。